

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04566

研究課題名(和文) 社会関係資本の創出を想定した生涯学習におけるジェロントロジー教育

研究課題名(英文) Gerontology education in lifelong learning assuming the creation of social capital

研究代表者

細江 容子 (Hosoe, Yoko)

実践女子大学・生活科学部・教授

研究者番号：30272876

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果は以下である。

1)ジェロントロジー研究者の協力を得て作成された生涯教育におけるジェロントロジー教育理論枠組を基に多様な専門家の助言を得、生涯学習における社会関係資本創出のための教材開発を進めた。2)生涯学習におけるジェロントロジー教育・研究関連の欧米の実践的プログラムの調査・研究・評価を基にその実践が高齢者の心身の健康と社会関係資本にどのような影響を与えるか研究を進めた。3)日本の生涯学習に即したジェロントロジー教育展開のため、UTSA実践プログラムを基にウェブページ作成上の問題等を考察した。4)UTSAの教育方法を基にH市でジェロントロジー教育のためのワークショップを実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究は、人生90年時代の人生第4期というライフステージを想定した地域社会において、生涯学習でのジェロントロジー教育のプログラム開発を進め、生涯学習現場で役立つ方法とそのシステムを構築・展開する中で、柔軟で多様な社会関係資本を地域に創出することである。具体的には、UTSAの協力を得、最新のジェロントロジーの情報を収集し、本学教員の協力・共働の基、生涯学習場面で地域住民に分かりやすく翻訳・展開する手法を開発し、UPennとの研究協力により多様な社会関係資本を地域に創出することであり、そこに本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The research results are as follows.

1) Based on the framework of the theory of geriatric education for geriatric education, which was created with the cooperation of gerontological researchers, we proceeded with the development of teaching materials for the creation of social capital in lifelong learning, with the advice of various experts. 2) Based on the survey, research and evaluation of practical programs related to research on gerontological education and lifelong learning in the US and Europe, we conducted research on how practice affects the physical and mental health of the elderly and social capital. 3) In order to develop a gerontological education along with lifelong learning in Japan, we examined the problems of web page creation based on the UTSA practice program. 4) A workshop on education for the elderly was held in H city based on the teaching method of UTSA.

研究分野：社会老年学

キーワード：社会関係資本 生涯学習 ジェロントロジー教育

1. 研究開始当初の背景

今日の世界は、「グローバル・エイジング」という歴史的な人口革命の入口に立たされている(中嶋圭介,2005)。全世界で起こりつつある人口革命に対して、世界規模で取り組むため、国連の第二回高齢者問題世界会議(2002)で、「全ての世代のための社会をめざして」というメインテーマで検討がなされ、世界の政策立案者に対し、高齢者と開発、高齢にいたるまでの健康と福祉の増進、および望ましい状況の整備という三つの優先的課題について勧告がなされた。世界の高齢化は、今後先進国のみならず開発途上国においても急激に進むことが予想されており、2050年までに高齢者人口が全世界で4倍に増えると推計されている。したがって、高齢化の問題は、今日、貧困の根絶に向けた戦略や、すべての開発途上国の世界経済への全面的参加を達成するための努力との関連で考えることが重要であるとの認識に至っている。

国連で採択された文書では、高齢化が単なる社会保障と福祉の問題ではなく、全般的な開発と経済戦略の課題であるという新たな認識が示されており、そこでは、高齢化に対する肯定的なアプローチを促進し、これと関連づけられるが否定的で典型的な考え方を克服する必要性が強調されている。しかし、日本の教育的取り組みは、いまだ断片的である。この様な中で、現在、人々が置かれている社会は、「知識基盤社会」と「知の爆発の時代」、「社会関係資本の再構築」という三つのキーワードで示す事が可能となっている。「知識基盤社会」とは、社会のあらゆる領域において新たなる知識・情報・技術の重要性が飛躍的に増大する社会であり、普段我々が見聞きする科学に関する社会的諸問題(socio-scientific issues)について、思考し、判断し、意思決定する高度な能力が要求される社会である。この様な社会においては、科学と技術とを切り離して、科学のみを教えることは不自然であるとも指摘されている(Millar,R.& Osborne,J.,eds.,Beyond 2000, King's College London, 1998)。「知の爆発の時代」とは、多量な情報や知識が次々と新しく生み出される時代である。Luhmann(1993)的に表現すれば、客体の文化が持つ「複雑性」を「縮減」し、主体の文化形成にかなうように変容させることを目指す戦略が必要となる。さらに、今日人々の心身の健康ともかかわる社会関係資本(Putnam,2000)が急激に減少し(Miller McPherson 2006)、少子高齢社会においては、その再構築が望まれている。

本研究では、最新のジェロントロジーに関わる情報を収集し、本学生活科学部教員の協力・共働の下、生涯学習場面で地域住民にわかりやすく翻訳・展開する手法を開発・展開し、多様な社会関係資本を地域に創出することをその目的とした。

2. 研究の目的

研究の目的は、人生90年時代の人生第4期というライフステージを想定した地域社会において、生涯学習でのジェロントロジー教育のプログラム開発を進め、生涯学習現場で役立てる方法とそのシステムを構築・展開する中で、柔軟で多様な社会関係資本を地域に創出することである。

今日日本においては、一般高齢者向けの体系的なジェロントロジー教育はほとんど行われておらず、さらに、その教育により社会関係資本創出を想定し、新たなる肯定的高齢者像を創造する教育・研究もほとんど行われていない。

本研究は大学と地域社会との共同・共働により、生涯学習の場面で、地域住民のために新鮮で十分に吟味、加工されたジェロントロジーに関わる「情報」をその教育のプログラムを通じて提供しようとするものである。ジェロントロジーに関わる教材は、生涯学習の場で役立てる方法とそのシステムを構築・展開する中で、柔軟で多様な社会関係資源を地域に創出することである。「社会関係資本創出を想定した生涯学習におけるジェロントロジー教育(平成28年~平成30)」の研究において、教育プログラムの展開手法の開発研究を行い、NPO 法人サイバーシニアーズ・ジャパンとの共働で高齢者のICT学習を試験的に実施し、プログラム展開への方向性をUniversity of Texas Health Science Center at San AntonioとUTSA East Asia Instituteの協力のもとにその方向性を追求することである。

具体的には、UTSA(University of Texas Health Science Center at San Antonio)の協力を得て、最新のジェロントロジーに関わる情報を収集し、本学生活科学部教員の協力・共働の下、生涯学習場面で地域住民にわかりやすく翻訳・展開する手法を開発・展開し、UPenn(The University of Pennsylvania)との研究協力で多様な社会関係資本を地域に創出することである。

3. 研究の方法

以下、本研究の方法である。

1). 国内外のジェロントロジー研究者の協力を得て作成された生涯教育におけるジェロントロジー教育理論の枠組みに基づき、医学、社会福祉学、社会学、教育学、老年学など各専門家の立場からの総合的助言から、専門領域の大学教員、H市、地域活動を行うその住民との共同・共働

に基づき、共同研究者と共に日本向けの教育プログラムや教材開発システムを発展させ、生涯学習における社会関係資本創出のためのジェロントロジー教育の教材開発を進める。

2) 生涯学習における、ジェロントロジー教育研究が進んでいる欧米の実践的プログラムの調査・研究の評価を基に、その実践が高齢者の心身の健康と社会関係資本にどのような影響を与えるかアクションリサーチを用いて研究すると同時に、東アジアの動向とその教育が高齢者にどのような影響をあたえるかを探る。

3) 日本での生涯学習に即したジェロントロジー教育をさらに展開させるため、ジェロントロジーの研究・教育実践が進んでいるアメリカの University of Texas Health Science Center at San Antonio での研究と教育実践プログラムに基づき、ウェブページ作成上の問題等を専門家とともに調査・研究を進め、そこで得られた知見を考察、実際の大学のウェブページ上の展開につなげる。

4) 日米共同で開発研究した教材等を用いて、日米の研究メンバーにより日本で生涯学習プログラムを学習者に提供し社会関係資本創出のための、ワークショップを実施する(The University of Pennsylvania の教員の特別講義を実施する予定を連絡済みである)。それと同時に、日本における生涯学習カリキュラム開発システムを構築し、東アジアでの学習実践に向けた研究協議を韓国、台湾、中国の研究者と行うことで(台湾、韓国の研究者との協力はすでに確済済みである)、東アジアの高齢化の問題に対し教育・研究領域で共働し東アジアの高齢化に関わる教育に貢献する。

5) これまでの研究の成果によるジェロントロジー教育の理論に基づき、地域住民だれもが参加できるジェロントロジー教育・実践空間を、University of Texas Health Science Center at San Antonio の協力を得、本学情報教育研究者との協議により大学のホームページ上で立ち上げ、Linux の様な Open Source 的なアプローチを展開する。

6) さらに、University of Texas Health Science Center at San Antonio の協力を得て、医学・看護教育ですでに利用されている iPad 等での教育方法を参考に、H市(すでに筆者が委員会の委員長として共働している)で、日本での生涯学習のジェロントロジー教育のモデルを構築する。

4. 研究成果

本研究の目的は、人生 90 年時代の人生第 4 期というライフステージを想定した地域社会で、生涯学習におけるジェロントロジー教育のプログラム開発を進め、学習現場で有用な方法とそのシステムを構築・展開する中で、柔軟で多様な社会関係資本を地域に創出することである。具体的には、UTSA(University of Texas Health Science Center at San Antonio)の協力を得、最新のジェロントロジーに関する情報を収集し、本学生活科学部教員の協力・共働の基、生涯学習場面で地域住民にわかりやすく翻訳・展開する手法を開発・展開し、多様な社会関係資本を地域社会に創出することである。

具体的研究実績概要は以下の通りである。

1) 国内外のジェロントロジー研究者の協力を得て作成された生涯教育におけるジェロントロジーの教育理論枠組みに基づき、医学、社会福祉学、社会学、教育学、老年学等各専門家の総合的助言を得、生涯学習における社会関係資本創出のためのその教材開発を進めた。

研究・開発された教材に関しては、研究費の関係から新たな研究費獲得後、ホームページへ掲載する予定である。

2) 生涯学習におけるジェロントロジー教育・研究が進んでいる欧米の実践的プログラムの調査・研究・評価に基づき、その実践が高齢者の心身の健康と社会関係資本にどのような影響を与えるか研究を進めた。

この項目に関しては、韓国梨花女子大学との研究や台湾実践大学との共同研究を実施しており、韓国梨花女子大学での国際シンポジウムにおいて“Images of Aging and Intergenerational Relationship”の研究報告を実施し、大きな評価を得た。

3) 日本での生涯学習に即したジェロントロジー教育展開のため、その研究・教育実践が進んでいる UTSA の実践プログラムを基にウェブページ作成上の問題等を考察した。

この項目に関しては、高齢者対応のウェブページサイトであるため、高齢者に実際にウェブサイトへアクセスしてもらうことが重要であり、そこから様々な修正点や実験的研究の重要性が指摘された。

4) 日米共同で開発研究した教材等を用いて、日米研究メンバーにより日本の生涯学習プログラム提供のため、ワークショップ実施案の作成とその協議を東アジアの研究者と実施した。

この項目に関しては、台湾実践大学の鄭先生、韓国 Chungnam National University の Ju-Hyun, Kim 先生との共同研究により実施され、各国での研究・開発が進んでいる。

5) UTSA の協力を得、医学・看護教育で利用されている iPad 等での教育方法を参考に、H市でジェロントロジー教育実現のためのワークショップを NPO 法人サイバーシニアズの協力を得て実施し高い評価を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Takeuchi Mika, Takahashi Keiko, Awazu Shunji, Yokoo Akiko, Takeda Hitomi, Suzuki Masao, & Hiroi Tazuko	4. 巻 6
2. 論文標題 Career Preparation of Female University Students and its Psychosocial Factors: Do their career self-efficacy and resilience forecast their progress of self-evaluation of career preparation activities?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所年報	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋桂子・数野千恵子・牛腸ヒロミ・細江容子・須賀由紀子	4. 巻 5号
2. 論文標題 『新選家政学』を読み解く（その1）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所年報	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yoko HOSOE, Ju-Hyun, Kim, Minhye Kim,	4. 巻 1
2. 論文標題 Images of Aging and Intergenerational Relationship	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ewha Institute for Age Integration Research N01	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 猪瀬武則・高橋桂子	4. 巻 55
2. 論文標題 高校生の経済倫理理解とハイトの道徳的基盤の関連性：経済倫理について高校生はどう理解しているか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実践女子大学生生活科学部紀要	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388 /1157.00001819	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 長崎 勤・鈴木はるみ,三角幸恵	4. 巻 1号
2. 論文標題 包括的発達支援プログラムの開発 リレー・ゲームによる協同活動・コミュニケーションの発達支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 実践女子大学教職課程年報第1号	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Takahashi, Keiko, Abe, Shintaro, Kadomoto, nobuteru, Kanie, Noriko, and Nakano, Yumiko,
2. 発表標題 From knowledge-based to competency-based test items of financial literacy: Pilot test among Japanese middle-level university students
3. 学会等名 International Conference on Education and Social Sciences, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko HOSOE, Ju-Hyun, Kim, Minhye Kim,
2. 発表標題 Attitudes towards older adults among university students: A comparison between Japan and Korea
3. 学会等名 Age Integration and Intergenerational Relationships (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mizuno-Shimatani, K. Katagiri
2. 発表標題 Active Engagement in Productive Activities: Comparison Between East Asia and the West)
3. 学会等名 The 21st International Association of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水野いずみ・菅原育子・細江容子・高橋桂子
2. 発表標題 市民アンケート調査にみる男女平等意識：東京都H市のケース
3. 学会等名 日本家政学会第68回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白尾美佳・佐伯央・境田佳奈・水野いずみ・岩船昌起
2. 発表標題 東日本大震災被災地域の避難所における食生活調査
3. 学会等名 日本食育学会第4回学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 T.Nagasaki
2. 発表標題 Comprehensive developmental support program for sense of self and language through participation in forms of life - using cultural contexts of music, game, co-cooking, home and classroom-.
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Y.Hosoe, I.Mizuno, K.Takahashi, I.Sugawara
2. 発表標題 THE WORK-LIFE BALANCE GAPS IN AGED PEOPLE
3. 学会等名 XXIII IFHE(International Federation for Home Economics) World Congress 2016
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 細江容子、長津美代子他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 211
3. 書名 新しい家族関係学	

1. 著者名 長崎 勤, 藤野博他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 128
3. 書名 コミュニケーション発達支援理論	

1. 著者名 細江容子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 211
3. 書名 新しい家族関係学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

社会関係資源の創出を想定した生涯学習におけるジェロントロジー教育
https://www.jissen.ac.jp/hosoe_gerontology/
 社会関係資源の創出を想定した生涯学習におけるジェロントロジー教育の確立をめざして
http://www.jissen.ac.jp/hosoe_gerontology/contents01/index.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水野 いずみ (Mizuno Izumi) (20407216)	実践女子大学・生活科学部・准教授 (32618)	
研究分担者	高橋 桂子 (Takahasi Keiko) (50311668)	実践女子大学・生活科学部・教授 (32618)	
研究分担者	長崎 勤 (Nagasaki Tutomu) (80172518)	実践女子大学・生活科学部・教授 (32618)	